

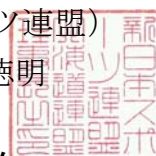
2012年11月28日

札幌市長様

札幌市議会自民党・市民会議 様
札幌市議会民主党・市民連合議員会 様
札幌市議会公明党議員会 様
日本共産党札幌市議会議員団 様
札幌市議会市民ネットワーク北海道 様
札幌市議会市政改革・みんなの会 様
札幌市議会みんなの党 様

新日本スポーツ連盟北海道連盟（北海道スポーツ連盟）

理事長 島崎 徳明



スポーツ施設の改善等に関する要請書、並びに市の回答

新日本スポーツ連盟北海道連盟には、スキー、登山、テニス、水泳、卓球、野球、ウォーキング等のスポーツ愛好者約2,000人が組織されています。北海道のスポーツの民主的発展とスポーツ技術・理論の普及・向上をめざして活動しています。

さて、私達スポーツ愛好者が日常においてスポーツ活動を行う際に支障を来している事項及び公共スポーツ施設の改善等について、昨年引き続き下記のとおり要望をとりまとめましたので、適切な対応をとられますことを要請いたします。



要請団体

北海道道央地区勤労者山岳連盟
北海道勤労者スキー協議会
北海道テニス協議会
北海道水泳協議会
北海道卓球協議会

札幌市からの出席者

札幌市環境局みどりの推進部みどりの推進課 課長 山縣保之 011-211-2522
札幌市観光文化局スポーツ部 施設課長 笠嶋文隆 011-211-3045
札幌市観光文化局スポーツ部 企画事業課長 石川義浩 011-211-3044

北海道連盟出席者

島崎徳明 新日本スポーツ連盟北海道連盟理事長（北海道勤労者スキー協議会会長）
松浦孝之 同 副理事長（北海道道央地区勤労者山岳連盟副理事長）
大塚義孝 同 理事（北海道卓球協議会代表）
田鎖忠利 同 理事（北海道勤労者スキー協議会理事）
島田詳子 同 理事（北海道テニス協議会理事）
渋谷昌隆 同 理事（北海道水泳協議会理事長）
高桑 武 北海道テニス協議会会長

紹介議員

日本共産党市会議員 小形香織

【登山関係】

1 空沼岳登山口に市が管理するトイレを！

まず最初に、昨年の市の回答への見解とその後の取組みについてのべます。

昨年の回答は「空沼岳のトイレの設置については、基本的には国が設置するものと考えている。まずは、石狩森林管理署に設置についての問い合わせ願いたい。その上で設置については市民の協力を得て、市として取り組みたいと考えている。」と理解している。

札幌市に対して、空沼岳登山口にトイレ設置の要望をした背景に、1、石狩森林管理署に国がトイレを設置して欲しいと要請したが、難しいとの返答を得て、2、多くの札幌市民が登る空沼岳の登山口にトイレを設置することを札幌市に要請する事になった。この課題は市議会でも取り上げられることとなり、3、札幌市はトイレ設置場所が国有地であるので、当該の石狩森林管理署の了解を得て、「登山団体がトイレの維持管理をするなら、トイレを設置しても良い(平成17年12月7日・第4回札幌市議会定例会：市側答弁)」という、態度を明らかにし、この新スポーツ連盟の席上でも、同様の回答が示された。

従って、空沼岳登山口にトイレを設置することに札幌市が同意しているのに、相違点はその維持管理を市が行うのか、登山団体が行うかであったはずなのに、振り出しに戻す回答があったことになる。

この経過からすると、到底理解できない回答であった、と言わざるを得ない。

しかしながら、新スポーツ連盟と北海道道央勤労者山岳連盟自然保護委員会は、この経過の再確認のため、3月6日に石狩森林管理署を訪問し、懇談してきた。

その中で、石狩森林管理署としては、立場は変わっていない。即ち、トイレ設置を札幌市が行う事になれば国有地の使用を認める、その旨、連絡済みであり、ということであった。

今年は、「登山団体がトイレの維持管理をしなければならない理由」を中心に以下質問するので回答をお願いしたい。

まず、私たち勤労者山岳連盟は、これまで空沼岳登山口に、市が管理するトイレを作って欲しいと市側に要請してきた理由は、

①登山は他のスポーツ同様、市民の健康増進にとって有効であり、市民が健康で文化的な余暇を楽しめるよう、札幌市も札幌近郊に遊歩道を作り、市民が自然に接し親しむことを推薦していること。②空沼岳は札幌市近郊では札幌市民の登山者の数も多く、最も親しまれている山の一つで、中学校などの学校登山が行われている山であること。また最近「山ガール」など、新しい層の登山者が増え、トイレなどのマナーが心配される事。③このコースは片道8キロで、往復だと16キロになり、当然途中で生理現象が起こります。途中で万計山荘もありますが、登山は「登山口」で用を足すというのが基本。④山中で「用を足す」ことは、自然環境上良くないこと、下流の健康問題にも発展します。登山者が少数の場合はまだしも昨今の登山ブームにより、数千からの登山者が利用する空沼岳では登山条件の整備の一環として、トイレ問題は一刻も早く解決すべき問題であろう。

これに対して、札幌市が「登山団体がトイレの維持管理をするなら、トイレを設置しても良い」という場合の維持管理に、「①「巡視(見回り)、②清掃(トイレの掃除)、③汲み取り料金負担(有償化)」(同市議会答弁)を上げている。

しかしながら、(1)空沼岳は、主に一般の札幌市民が利用するのがほとんどで、特定の山岳団体が利用する特殊な山ではないこと。(2)従って、登山口のトイレは公共のものであり、街の公園のトイレと同じ性格を持つもので、設置者が汲み取りを含め維持管理すべきもので、(3)特定の山岳団体がトイレを維持管理すべき理由や根拠はないものとする。

昨年度までは、市側との交渉で、これらのことをのべて設置をお願いしてきたが、市側の回答はこれらの意見にまともな回答をしておりません。今年こそこれら(1)～(3)に対する回答を求め、併せて早急に設置を前提にした検討をお願いする。

なお、何らかの形(スポーツ振興事業団等に)で、維持管理を委嘱するなどの新しい形態を模索する事も検討していただきたい。

札幌市議の皆さん、札幌市長はじめ市の関係者の皆さん、設置費用も、維持管理費用も微々たるもので、市民の健康と、自然環境の維持のために、是非トイレの設置の検討をご検討くださるよう強く要請する。

【札幌市の回答】 みどりの推進課課長

「登山団体がトイレの維持管理をするなら、トイレを設置しても良い」、という基本的立場に変更は無い。

回答後の意見→ 万計沼が山荘管理者の努力でトイレが便槽化され、大腸菌がいなくなった。小屋がいつまでも維持できるとはならないので、その場合、真駒内川に大腸菌流れ込むことになる。登山口にトイレが必要だ。また、札幌近郊の遊歩道にあるトイレなどの改善を図るべきだ。

2 中央体育館の改築に関して、クライミングウォールの設置を！

昨年の回答の要点は、「将来の人口減少、財政的負担を考え格技等の現状維持を含めて、出来るだけコンパクトなものと考えている。フリークライミング等の新規種目への対応は難しいとは考えている。」「既存の団体等からヒアリングを進めている」というものでした。

また、「総合体育館としての機能と中央区体育館としての機能をあわせ持つ体育館となるようにと考えている。」というものでした。

しかしながら、「施設建設以来46年が経過し、耐震性能の問題や設備の老朽化の進行、バリアフリー対策の遅れなどから、現設備を維持することが困難となりつつあるほか、時代の変化とともに、各種競技大会の大規模化やスポーツニーズの多様化が進み、プロスポーツが台頭するなど、現施設のままでニーズに応えることが困難になりつつある。(札幌市中央体育館建設基本構想 体育館の現状と課題 1-1 背景より 平成24年7月)」としているにも関わらず、中央区以外の体育館において、多様なニーズを取り上げていく計画も実態も無い中で、「新規」の中央体育館改築にあたり、れらを含めて、検討すべきであった。

平成22年12月の札幌市スポーツ振興審議会において、「現有及び新たな機能を拡大・充実することにより、スポーツ活動の促進につながる総合体育館が必要」との指摘も生かされていない。

上田市長は、世界に誇れるスポーツ都市をめざすとしている。フリークライミングは、2020年からオリンピックの正式種目となる予定であるが、札幌市の施設にフリークライミング競技と練習ができる体育館はない。そういう中でも、北海道は第66回山口国体ボルダリングにおいて、成年男女とも優勝している。

現状は、公的な施設は「きたえーる」のフリークライミングウォールしかなく、クライミングウォールの規模が、高さは15mあるが、幅は6mしかなく、練習は同時に4コースしか使えない。使用人数20～30名では、5時30分から9時までフルに利用しても、せいぜい登りこみは4回程度しかできない。また、「かぶり」(90度以上の傾斜を持つ壁)も少なく、高度な練習は出来ないのが現状である。また、サブアリーナの一部の壁に設置しており、週に2回程しか使用できず、大会や文化的行事の際は中止せざるを得ない状況である。

一方、親子で練習している方からは、「有料の民間施設だと、1回で2500円(親子パック)と高額でなかなか行けない、ジュニアの育成の為にも是非中央体育館にフリーの壁が欲しい」と要望された。

10月末の「きたえーる」ウォールでは、5歳から80歳まで、約25名程が熱心に練習していたが、年齢問わず楽しめる競技である。



中央体育館に、「国際的な大会ができ、多様な練習が可能なクライミングウォール」「他の競技と競合しない独立したスペースを持つクライミングウォール」の設置を強く求めます。
具体的には、クライミングウォールは幅10m・高さ15m、幅10m高さ7mの2つの壁からなり、高い方の壁の上部は、斜度120～130度で手前にせり出し、壁から5m位出ること、フロアーは20m×20程とし、大会等の際は隣との壁を外して、観客席がとれるのが望ましい、と考える。

【札幌市の回答】 スポーツ部企画事業課長

改築予定の中央体育館にクライミングウォールの設置が可能かどうか検討してきた。しかし、競技ウォールの規格である、高さ12.5mの確保と、壁を備える場所がなく、設置は難しい。

今後、老朽化した区体育館の改築時に、クライミングウォールの設置ができないか検討したい。
回答後の意見→ スポーツ課が、ニュースポーツに対して、ニーズを調査し、市のスポーツ施設のあり方をきちんと提案していくべきだ。

【スキー関係】

Fu's スキー場の整備と割引料金の設定について

札幌市藤野野外スポーツ交流施設の「Fu's スキー場」を平日の木曜日、ポール練習バーンとして利用させていただき、シニア世代及び現役世代の一部のスキーヤーに大変喜ばれ、感謝申し上げます。

次に事項について改善いただければ、なお多くのスキーヤーの利用しやすいスキー場になると思いますので、検討をお願い致します

1 スノーガンの導入等による利用期間の延長並びに安全なバーンの造成について

スキーシーズン当初は、このスキー場のある南区藤野地域は、以外と積雪量が少なく、かつ急斜面のバーンでの雪の貼りつきが悪く、一部バーンの使用にとどまる期間があり、かつ事故その他安全性に問題があります。そのため1月中旬までと3月中旬以降の期間はスキーヤーにとって敬遠するスキー場の一つになっています。

1月中旬から2月下旬までは、学校のスキー事業が全ゲレンデを使って行われます。その時期でも、貴施設職員の大変な努力でバーンの整備が行われていますが、限界があるように感じています。

そこで、多額の費用はかかりますが、スノーガンの導入を検討してはいかがでしょうか。このことにより、12月当初から3月末まで整備された安全なバーンが出来、スキー利用者の増加につながると考えます。

当面、プラスチック製人工芝を土砂がでやすいか所に敷き占めるなどの対策も検討して下さい。同じような気象条件のバンケイスキー場はこのことで成功したスキー場と思われれます。

【札幌市の回答】 スポーツ部施設課長

スノーガン導入について、予算の制約もあり、期待にこたえられません。利用者の安全確保のための土砂対策を検討します。

2 シーズン券のシニア割引制度導入について

札幌市外で近郊のキロロ、朝里川温泉、ウォンズスキー場ではシニア料金の設定の上、早割料金を設定しています。またバンケイスキー場では時間単位でチケットを切るなどで、シニア世代には好評です。

平日のゲレンデの状況を見ると、学校スキー事業が終了すると、閑散としています。

そこで、料金体系として、シーズン券にシニア世代及び南区在住の住民を対象に割引制度（早割を含む）の導入をはかるべきと考えますがいかがですか。バーンの整備による利用期間の延長とともに、平日のスキーヤーの増加を導き、営業面でも価値があると思います。（参考のため各スキー場のシーズン券割引料金を事後紹介します。）

【札幌市の回答】 スポーツ部施設課長

シニア料金の設定や地元地域の協力にこたえるため、今年から共同指定管理者に指名された札幌リゾート(札幌国際スキー場議業者)のノウハウを活用して、検討します。

【テニス関係】

【 モエレ沼公園コートに対しての要求 】

要求① 除水作業用具の補充をお願いします。

注釈／現状、吸水ローラー2台(右図)と吸水スポンジ数枚が設置されておりますが大会など大会開催時には10～15面を使う為、当然足りるはずもありません。吸水スポンジの設置、収納場所の確保をお願いします。

追記／資料写真のスポンジは60センチ×45センチ×厚さ9センチ位ですが作業経験者の話では、60センチ×90センチ×厚さ4.5センチ位の物を二つ折りを使う方が効率良い。
(水気が引いてきたら、広げて一気に作業するため)



参考資料：野幌総合運動公園における除水作業風景と保管状況

【札幌市の回答】 みどりの推進課課長

スポンジの置き場の確保の問題が出されましたが、早急に用意を検討する。

要求② スコアボードの改善

注釈／現状の物は風が吹くと、簡単にカードが飛ばされてしまい(下図左側) 試合進行に度々支障をきたしています。下図右側の野幌総合運動公園コートのようなボード設置を望みます。



参考資料：モエレ沼公園コート(下図左側)と野幌総合運動公園コートのスコアボード

【札幌市の回答】 みどりの推進課課長
野幌タイプのスコアボードを用意する。

要求③ センターストラップの選定に関して

注釈／マジックテープ式のセンターストラップ設置のコートがありますが使用に耐えられず、紐などを使い(右図)応急処置されていました。

10月24日の調査において、新品に交換されておりましたが、写真資料を見ても分かるように、ストラップが傷む前にマジックテープが使用に耐えなくなります(下図左側)。次回交換の際には一般に使われているバックル式の物(下図右側)への交換をお願いします。



バックル式 (川下公園)

【札幌市の回答】 みどりの推進課課長
次回の交換時より順次、バックル式に交換して行く。

要求④ テニスコートライン際の補修

注釈／コート数面において、ライン際が剥がれてきています。

プレイヤーがつかずく等の危険性もあります。そのまま放置されると更に剥がれは進み、破損は広がります。 ※現状写真有り



【札幌市の回答】 みどりの推進課課長
取りかかっています。

**要求⑤ ベンチ座面と背もたれ板の補修（磨き
& 塗装など）**

注釈／既に設置されてから数年経っており、虫喰われのため座面の板自体がひび割れ、ささくれ等を起こしています。

テニスウェアは、普段着用する衣服に比べ非常に薄い物です。不用意に座る、怪我すらし兼ねない状況となっています。



【札幌市の回答】 みどりの推進課課長
交換、修繕可能なものは補修する。と回答がありました。

回答後の意見→尚、テニス協より交換時には、前回も要望した可動式ベンチを再度、要望しました。

【水泳関係】

1. プール利用者に定期的にAED（自動体外式除細動器）の取り扱いについて研修を行い、AEDを操作できる人を増やすための機会を増やしていただきたい。

【札幌市の回答】 スポーツ部施設課長
各事業者の自主事業として実施している状況です。

2. 来年度（平成25年度）から、市内公園の水遊び場（約60カ所）の利用期間をいつでも延期できるよう（今年は利用期間後の猛暑時には利用出来なかった）、暑さ対策として柔軟に対応できる体制をとって欲しい。

【札幌市の回答】 スポーツ部 施設課長
契約事業の内容について検討してみます。

3. プール施設の案内標示、掲示に、点字標示、音声案内などの新・増設を検討して下さい。

【札幌市の回答】 スポーツ部 施設課長
市のバリアフリー化計画の中に含まれています。

4. 灯油や化石燃料の価格が高止まりしています。エネルギー源を自然エネルギーに変え

ていく検討をお願いします。

【札幌市の回答】 スポーツ部施設課長
検討課題になっています。

【卓球関係】

1 体育館専用使用時の器具の配置改善について

卓球台、フェンス以外の使用する各種器具について、体育館の責任で、使用する競技場の一角に事前に置いていただきたい旨を昨年要請しましたが、その結果、各体育館とも改善がはかられ、大会もスムーズに進行でき、感謝申し上げます。各体育館の担当者へ感謝の意を伝えていただくとともに、来年度も事前打ち合わせにもとづき、ご配慮いただくことを要請します。

2 事前入館準備時間について

大会当日、8時30分に準備のため役員の入館を認めていただき、大会受付等がスムーズに進み、感謝申し上げます。ただ中央体育館において、この趣旨が伝わって少なく、こちらから説明し、入館を認めてもらった事例もありました。施設長などが変わることもありますので、準備の事前入館時間8時30分を各施設に周知されますようお願い致します。

3 中央体育館の機能拡充した改築計画に関する要請。

同体育館改築は、札幌市の計画では平成26年着工とされています。現在立地場所の選定に入ったと聞いていますが、現在の進行状況についてお知らせください。

同施設へのアクセスが重要な要素となると思いますが、地下鉄など公共交通機関からのアクセスにつて、現在の計画をお知らせください。

体育館の改築計画にあたり、現在中央区には区民体育館がありません。全市的規模のセンター体育館と区体育館の役割・機能上の違いに照らして、区民体育館の競技室、小体育室規模のものが併置されることが必要と思われますがいかがでしょうか。市内の区体育館等の専用利用調整会議を開いていますが、年々各種スポーツ大会の開催数が増え、土曜・日曜日は、調整が難航する事態も生まれています。このまま推移しますと、専用利用の制限する事態も生じかねません。市民レベルの競技力の向上とスポーツの振興にとって、区民体育館の機能も兼ね備えたセンター体育館の改築計画を進めるよう要請します。

【札幌市の回答】 スポーツ部企画事業課長

中央区北4条西6丁目の北ガス民有地の取得を検討しています。

今年度末に基本計画を策定します。2,500席をもつメインアリーナ以外に、現在の中央体育館の機能を継承していく考えでいます。

【卓球追加要請項目 北海道卓球協議会】

全国大会への卓球台貸出についての要請

第20回全国卓球選手権大会（新日本スポーツ連盟全国卓球協議会主催、北海道卓球協議

会主管)が平成25年11月29日、30日、12月1日と3日間にわたり「きたえーる」で開かれます。この大会には各都道府県代表800人の選手の出場が見込まれています。現在「きたえーる」には卓球台46台はメインアリーナ用で、サブアリーナで使用できる卓球台がありません。

つきましては、札幌市の体育館で所有している卓球台の貸出をお願い致します。美香保体育館は冬季間スケートリンクになり、大会等で使用しない期間であり、規定に基づく貸出料の負担、運搬及び破損に対する損害賠償などは北海道卓球協議会と全国卓球協議会で責任をとりますので、特別なご配慮をお願いする次第です。

【札幌市の回答】 スポーツ部施設課長

美香保体育館の卓球台の貸出については、冬季間使用しないこともあり、破損の阻害賠償、運搬費の負担を前提に、申込があれば、貸出します。

以上